令和４年度　学年研修　１学年　最終報告

1　研修のテーマ

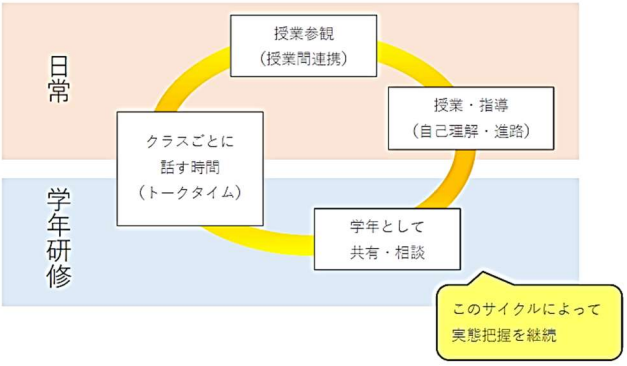
「教職員の「生徒理解」と、生徒の「自己理解」を深める」

2　研修の方法

(1) 日々気付いたことを、学年共用のノートへ記録する。付箋に書いて自由に貼り付ける形とする。
(2) 学年研修時にノートの内容を確認し、支援や指導、授業づくりについて協議する。
(3) これらを踏まえて、授業実践を重ねる。
(4) 自由に授業参観し、気付いたことをカードに記入し、授業者へ渡す（授業者と話すきっかけ）。
(5) 状況に応じて、オーダーを明確にした協議や授業参観を行う。

3　研修の様子

・共用のノートはスケッチブックにし、生徒一人あたり４ページ程度を使えるように区分けした。基本的に担任が管理・運用することとしたが、誰もがすぐ手に取れる位置で保管している。
・学年研修の日以外でも付箋を貼ったり、評価や HR 内の打ち合わせ等で見返して生徒理解を深めたり、指導の方向性や方法を見いだしたりすることがある。
・７月から授業参観を始め、さらなる生徒理解と、特に自己理解を促すため授業改善につなげるようにしている。
・９月の学年研修で、授業参観者が気付いたこと（アンケートの記述）を AI テキストマイニングで分析し、キーワードを視覚化した。今後の研修の進め方や生徒の指導について協議した。
・前期の取り組みをきっかけとして生徒の実態把握ができ、指導の方針を明確にして指導したことで生徒の成長も見られた。一方で、生徒の話をする機会や授業参観の余裕があまりない傾向も見られた。
・後期は右図のようにイメージを共有しながら進めた。研修日に集合が困難な場合は回覧によって日常の困り感やそれに対する助言等を共有する工夫も行った。



4　成果と課題

・生徒理解、実態把握の機会となった。
・新たな視点や情報を得ることができた。
・定期的にクラスで協議したことで、変化を捉え、アプローチの方向性を定めることができた。
・卒業後を意識して日常的に指導したり、授業改善につなげたりすることができた。
・生徒の課題への対応について協議が不十分で、その後の指導が十分にできていないことがあった。こうしてはどうか、クラスでこうしているのでお願いしたい、というような情報が学年全体で共有できるとよい。クラスの所属を関係なしにグループを組んで協議する、朝会で共有するのも一手。研修を生徒に還元するには、教職員間が日常的に対話していくことが肝要。
・生徒の自己理解を深め、生徒個々に進路を絡めた指導、卒後に向けた指導が必要。
・主な就労先や、求められる具体的な力について教職員が把握し、授業していくことが必要。

スケッチブックで協議をしている様子（全体）

スケッチブックで協議している様子（クラスごと）と、スケッチブックの中身

クラスで協議したことを発表し、学年で共有している様子